

第 2 回 SSH 学校公開「学術研究 I」プレ課題研究ポスター発表会

令和 8 年 9 月 9 日(水)13:10~16:50 に、体育館にて「学術研究 I」プレ課題研究ポスター発表会が行われました。第 2 学年生徒、また多くの 1 年生保護者、学校関係者が参加し、1 年生がこれまで取り組んできたプレ課題研究に関するポスター発表を見学しました。プレ課題研究は、学術研究 I において年度前半に行われる活動であり、年度後半に始まる本格的な課題研究に向けて最低限身につけるべき知識を習得するための修行期間と位置づけられています。これまで生徒は、自らの興味関心に基づいた「問い」を立て、それに対する答えを見つけるべく研究活動に取り組んできました。

ポスター発表ではクラス発表とはちがった緊張した様子がみられましたが、観衆からの質問に真剣に答えるなど充実した発表活動を行うことができました。他校の先生方による鋭い質問に対しても、準備した内容を基に、多くの班が的確な返答をすることができていた。



○当日の日程

13:10~ 13:40 受付(体育館)

13:40~ 13:50 開会行事

13:50~ 15:35 公開授業 1 学年プレ課題研究発表会

- | | |
|---|---|
| [| 13:50~14:35 ポスター発表(1・2・6・7 組)15 分×3 回
(発表 5 分+質疑応答 5 分+聴衆移動 5 分) |
| | 14:50~15:35 ポスター発表(3・4・5・8 組)15 分×3 回
(発表 5 分+質疑応答 5 分+聴衆移動 5 分) |

15:35~15:45 閉会行事

15:55~16:45 教員研修会(情報交換)



仙台大学 講師 山口恭正先生の講評

ポスター発表会当日は仙台大学講師の山口先生が参観し、以下のようなコメントを頂きました。「今回の発表は、去年に比べて内容が独自性のある物が多く、とても興味深い物が多かった。発表の様子も研究の成果を分かりやすく伝えることができていた。」

良い発表というのは、質問されるような発表である。聴衆は、発表を真剣に聴き、発表者は聞く人が興味を持つような研究を行う必要がある。これからの学術研究にも大きな期待を持っている。」

これまでのプレ課題研究の反省点や、これからの改善点などに気付かせてもらうことができた。



○発表した1年生の声

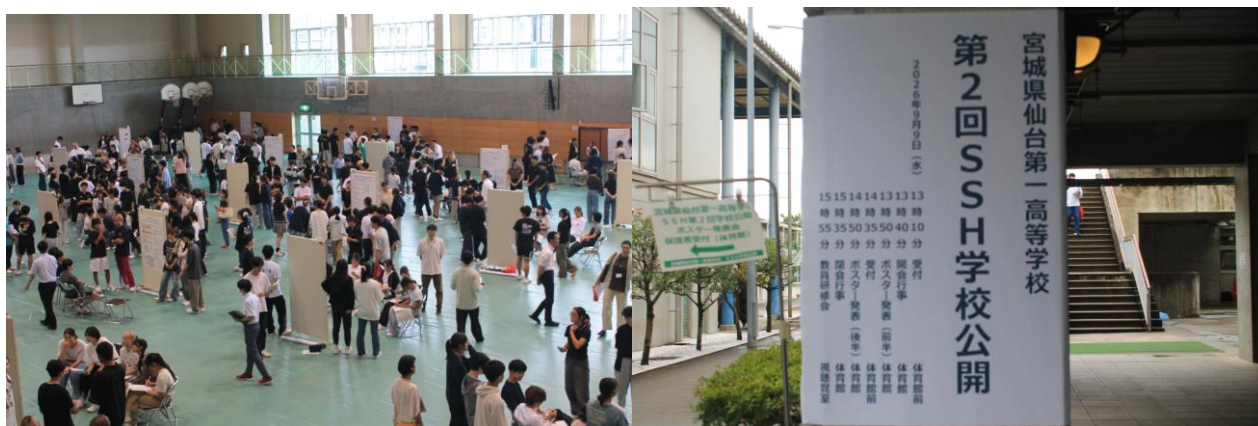
今回の研究発表を通して、研究では結果だけでなく、そこに至るまでの過程を丁寧に考えることが大切だと学んだ。先輩方からの助言を受ける中で、自分たちでは見落としていた細かな部分にも目を向ける必要があると感じた。特に、根拠を明確にしながら順序立てて説明することの重要性を実感した。これからは今回学んだことを活かし、より筋道の通った研究や発表ができるようにしていきたい。

他の班の発表を聞いて、自分たちとは異なる考え方や視点があることを知った。これまで自分の考えを中心に物事を捉えていたが、他の人の意見を聞くことで、新しい視点を得られることが分かった。また、質問する側になることで、発表をより深く理解できることにも気づいた。今後は周囲の意見を積極的に取り入れて、自分の考えを広げることを意識したいと思った。

今回の発表では、研究内容をただ説明するだけでは、聞き手に十分な興味を持ってもらうことが難しいということを改めて実感した。また、なぜこのテーマを選んだのかという部分を分かりやすく伝えることが大切だと感じた。研究の背景や目的を明らかにすることで、聞き手も内容を理解しやすくなると思った。次回は内容をまとめるだけでなく、聞く人の立場を考えた発表を心がけていきたいと思った。

実際に発表をして質問を受けたことで、自分たちの研究について理解が不十分だった部分が明らかになった。準備していたときには気づかなかった疑問を指摘され、少し戸惑ったが、研究を深めるためには第三者の視点が必要だと感じた。また、他の班への質問や意見を聞く中でも、自分にはなかった発想に触れることができた。今回得た気づきを次の研究に活かし、より多角的に物事を考えていきたい。

発表に向けてしっかりと準備したつもりだったが、本番では予想していなかった質問を受け、事前の準備だけでは足りない部分があることに気づいた。特に、自分たちが当然だと思っていたことについて質問されると、うまく説明できない所もあった。一方で、それによって自分たちの研究を改めて見直すことができた。今回の発表を通して、発表前にはさまざまな視点から質問を想定し、研究内容をより深く理解しておくことが大切だと学んだ。



【編集後記】

81回生にとって初となるプレ課題研究発表会でしたが、先輩方からの的確なアドバイスや同級生の発表から、多くの学びや刺激を得る良い機会となりました。今回の経験で培った論理的な考え方や発表のスキルを糧に、これから本格化する研究活動にも望んでいきたいと思いました。